



## らくいち らくざ 「楽市・楽座」とは、どんなものなの



商工業の発展を妨げていた座の特権をなくし、新しい商工業者に活躍の場をあたえる政策だよ。

### 座は、同一業種でつくられる特権的組合

座は、貴族・神社・お寺が持っている荘園で、同じ種類の仕事をしている商工業者や芸人がつくった組合です。北野神社に属する酒麴座、大山崎離宮八幡に属する大山崎油座などが有名です。座は、荘園の持ち主にお金（座役）を納め、そのお返しに、いろいろな特権をあたえられました。その特権は、持ち主が支配している地域の中で、原料の仕入れ、製品のはん売などをひとりじめにする権利や、関所を通るときの税金（関銭）、市場で商売をするときの税金を、納めなくてもよい権利です。このような座は、鎌倉・室町時代に広まりました。座の人数は、ふつうは十数人ですが、200人もいる大きいものもありました。

### 市で商売をする権利も、座がひとりじめにした

市は、たくさんの人が集まって、品物の交換や売買をする市場のことです。室町時代になると、荘園の中の市で商売をする商人は、座をつくり、荘園の持ち主にお金（市座役）を納めて、市で商売をする権利をあたえられました。その座に入っていない商人は、市からしめ出されたのです。

### 戦国大名は「楽市・楽座」の政策をとった

戦国大名は、領内の商工業をさかんにし、城下町を発展させることに力を入れました。そのため、商工業の発展を妨げていた座の特権をなくし、新しい商工業者を城下町に招いたり、市で自由に商売をさせたりしました。これが「楽市・楽座」の政策で、新しい商工業者に活躍の場をあたえるとともに、領内の商工業を統制する意味ももっていました。大名側のつごうで残された座も、たくさんありました。この政策を、特に強力に行ったのは、織田信長と豊臣秀吉です。